を加えて報告する.

6. 直腸後壁(仙骨前方)に発生した teratoma の1例

泰川　恵吾

最近我々は後腹膜(仙骨前方)に発生した teratoma の稀な1例を経験したので，文献的考察を加え報告する.

症例は27歳女性で直腸後方腫瘍の疑いで H.1.9.20 当科に紹介入院した．自覚症状は特になかった．エコー，CT, MRI では直腸後壁(仙骨前方)に被膜を有する cystic な腫瘍を認め，その内部構造は不均一で周囲臓器への浸潤はなく，リンパ節の腫大も認められなかった．注腸造影では腫瘍により直腸が前方に圧排されていた．H.1.10.3開腹にて摘出術を行なった．腫瘍は手拳大で仙骨前方に存在し周囲への浸潤はなく容易に摘出可能であり，組織学的には良性 teratoma と診断された.

小児において後腹膜は teratoma の好発部位であるが，成人においては稀である．なかでも仙骨前方に発生した teratoma はきわめて稀である.

7. 小児 ganglioneuroma の2例

山中　　茂

Ganglioneuroma (以下 GNs と略) は，若年者に多い神経原性良性腫瘍である.本邦では100余例の報告が見られるのみの疾患で,その診断も特徴的所見を欠き,確定診断を病理組織学的に依らざるを得ない．今回術前に GNs と診断し手術施行した2例を経験したので若干の文献的考察を加え報告する.

症例1：15歳女児．心窩部不快感を主訴に来院，US にて後腹膜腫瘤を指摘され入院．各種画像診断にて膵尾部と左腎上極との間に直径約10×10×8mm の腫瘍を認め手術施行した.

症例2：9歳男児．乾性咳嗽を主訴に来院．胸部レ線にて後縦隔腫瘍を指摘され入院．CT，MRI，US にて，左後縦隔上部より左鎖骨下動脈に接した直径約8×5.5×8.5mm の腫瘍を認め手術施行した.

8. 当教室における鼠径ヘルニアの術式(小児・成人例)

呉　　兆礼

鼠径ヘルニアの術式は他の手術に類を見ないほど変遷に富み，多種多様の術式が有る．当教室で行っている小児・成人例の術式を若干の考察を加え紹介する.

小児では高位結紮によるヘルニア嚢の処理が手術の主目的で,当教室では Potts 法を用いている.さらに術創の美容形成も目的の一つと考えている．成人では再発防止を主眼としていて，後壁補強に重点をおき，当教室では iliopubic-tract repair または McVay 法を用いている.

術式の選択で重要なことは，解剖や手術法の本質を理解することで，その上で自分の納得できる手術法に習熟し，個々の症例に適した術式を選ぶことが大切である.

9. 救命救急外来における治療的外科処置の検討

木山　　智

当センター外来において緊急開胸心マッサージが治療的外科処置として行われている．今回我々は，治療的外科処置としての緊急開胸心マッサージの有効性について検討したので報告する.

昭和63年4月1日より平成1年9月30日までに当センターを受診した来院時心肺停止(以下 DOA)は294例で,閉胸式心マッサージでの一時蘇生不成功例は195例であった．その内の79例(40.5%)に開胸心マッサージを施行した．開胸心マッサージ施行例中21例(26.5%)が一時蘇生に成功し,その内の7例が ICU に収容が可能となった．これは全 DOA (294例) 中2.3%に過ぎないが，閉胸式心マッサージでの一時蘇生不成功例中の3.6%であり閉胸式心マッサージで一時蘇生ができない時合は早期に開胸心マッサージに移行することが望ましいと思われた.

10. A-V malformation により血胸を来した1治験例

金木　昌弘

今回我々は東京女子医大救命救急センターを dyspnea を主訴として受診し，X-P 上血胸を認め胸腔ドレーン挿入した所,大量の血液の流出があったため,緊急手術施行し，その病理検査にて上記診断が得られた症例を経験したので，若干の文献的考察を加えて報告する.

症例は13歳男性．既往歴では半年前から肺結核を疑われ内服治療を受けている以外特に無い．手術では，右肺下葉に3×5cm の範囲で血管が著明に拡張，拍動しており一部で血管が rupture していた．上記診断を疑い右肺下葉区域切除術を施行した.

文献的にも肺動静脈奇形が破裂し血胸を合併したと言う報告は現在までの検索においては認められず，術前診断も困難であり，病理診断のみが唯一の確定診断法であった.

11. 硝酸銅服用の2治験例